

福 社 会 会 報

社会福祉法人
大分県福祉会
大分市頭徳町
1-13-17
発行者
有松一郎
☎532-3472



去る九月十六日に、落成竣工が無事行われた。明野西町自治会長を始め自治会役員、仮設園舎でお世話になった明野緑町の方、地域学校関係者、施工業者の皆さん、他法人関係者に集まっていた四歳児五歳児の子ども達から新園舎生活となり新しい環境で初めての行事となったのだが、子ども達の「ありがとう」という気持ちがひしひしと伝わってきた時間であった。



全身を使って遊べるボルダリング

んなスペースがあったらいいな」「壁の色はこの色がいい」「秘密基地があったら楽しいね」等職員が皆、園児の遊びや動線また安全性を考えながら積極的に意見を出し合い幾度となく話し合いを重ねていった。子ども達は保育活動の中で建設現場に幾度となく散歩に行き見学したり、送迎時に親子で見に行ったりして、園舎が解体され、新たに立ち上がっていく様子を目の当たりにし、わくわく感が止まらなかったようだ。



スロープで嬉しいね

定員数も百五十二名に増員となった。保育環境の充実を考えた時、ネット遊具やボルダリング、芝生のスロープや広々と使えるテラスと子ども達が「のびのびと過ごせる場所」は十分確保できたと感じる。この環境を作っていたいたた全ての方々に感謝の気持ちを忘れてはいけない。木をふんだんに使いたる温かみのある造りとなった園舎は子ども達や保護者にも大好評である。この生活がスタートして早くも四か月が経過した。工事期間中は地域の方々を含め、たくさんの方々に迷惑をおかけしたが、再びこの地で運営を開始すると心温まる声掛けを頂いた。



滝尾保育園より二名が県知事表彰を、明野しいのみ保育園より一名が大分県社会福祉協議会会長表彰を受賞された。

をおかけしたが、再びこの地で運営を開始すると心温まる声掛けを頂いた。更に皆様から愛される園となるよう職員一同心を一つにして保育園づくりをしていきたい。また、この恵まれた環境を十分活かせるようこれまで以上に「職員間の輪」を相乗させより良い保育を提供できるよう取り組んでいかなければと思う。「子ども一人ひとりの幸せのために」の使命を常に念頭におきながらより一層笑いの絶えない楽しい保育園を目指していきたい。

滝尾保育園主任保育士 中野秀子
大分県福祉会で働き四十年過ぎました。「継続は力なり」という諺がありますが真にそう感じます。仕事や家庭の中に今の私が存在していると思いません。知事表彰を頂き本当に誇りに思っております。

先日、知事表彰を受けました。家族、両親にこの事を伝え、特に両親はとても喜んでくれました。これまで私を支えてくれた方々(仕事関係・家族)のおかげと感謝しています。有難うございました。

明野しいのみ保育園調理員 御手洗由子
この度、大分県社会福祉協議会会長表彰をいただきありがとうございます。入社以来皆さんに支えられ仕事を続けることが出来ました。今後も子ども達の為に努力していきたいと思っております。

年頭所感

新年明けましておめでとうございます。皆様には、令和三年の新春を健やかに迎えられることとお慶び申し上げます。振り返りますと昨年は、新型コロナウイルスに翻弄された一年間でありました。マスクや消毒用アルコールの不足に始まり、非常事態宣言による休校や行事自粛、ゴールデンウィークが明けて一旦は落ち着きを見せたものの、九月よりの第二波、第三波の襲来と、予断を許さぬ一年間でした。当法人におきましては、日頃の感染症対策に加え、利用児者とご家族の皆様の絶大なご理解ご協力と、職員一同の緊張感ある日々の対応により、令和二年を無事に乗り越える事が出来ました。今日までの関係者の皆様のご尽力に、心より感謝申し上げます。



その一方で、年が明けましても状況は日々その厳しさを増しており、引き続きご当局のご指導のもと、更なる感染症対策の徹底、利用児者及びご家族と職員の精神的ストレスの低減等についての取り組みを進めてまいります。

進化に向けた新たな挑戦

進化に向けた新たな挑戦
コロナ禍に打ち勝つ冷静な見極め
社会福祉法人大分県福祉会
理事長 有松 一郎

方改革の更なる充実にむけて、新たな勤怠管理システムの導入や勤務シフト管理ソフトの導入等を決定し、本年より運用を開始することとしております。さらにはロボット導入による業務改善や外部のクリエイターとの顧問契約によるデザイン経営の導入等、未来に向けた希望溢れる取り組みも実現することが出来ました。

さて、本年の干支は「辛丑(かのと・うし)」です。干支の解釈につきましては、文献により様々な考え方がありますが、一般的に「辛(かのと)」につきましては、沈黙や冷静さを表すことから、活動が衰退していく様子を象徴しています。また、「丑(うし)」は、命の芽吹きを象徴しているといわれていることから、本年は活動の停滞と新たな希望が混在する年になるような気がしております。コロナ禍に打ち勝つことを目指し、状況を冷静に見極めつつ、進化に向けた新たな挑戦

を続ける年にしていくと考えております。最後に、利用児者の皆様や勤務いただく役員はもとより、当法人に期待と信頼をお寄せいただくすべての皆様に、本年もさらなる進化を目指し先進し続けることをお約束し、今後益々の皆様のご支援・ご協力をたまわりますことを、心よりお願い申し上げます。新年のご挨拶といたします。

理事会・評議員会



九月定例理事会が令和二年九月十八日開催、監事の変更、評議員選定委員の変更、就業規則改正、明野しいのみ保育園追加工事借入、積立資産取崩、令和二年度第一次補正予算、評議員会開催について審議承認された。

福祉サービスマニユアル委員会

令和二年度第一回福祉サービスマニユアル委員会が令和二年十一月十二日開催された。前年度より滝尾保育園代表村田曉美氏、明野しいのみ保育園代表の石井江里氏は新たに就任し、仲元研二氏、岡村邦彦氏、吉田隆氏、溝邊博見氏、中野英一氏の五名は再任された。仲元研二委員長挨拶後、法人本部及び各施設より重点課題への取り組み、施設の現状、苦情、ヒヤリハット、事故対応等についての報告の他、新型コロナウイルス感染症予防対策、感染症発生時対策についても報告があり協議を行った。利用者家族や第三者委員の意見の後「理念や重点課題への取組み、リスク管理への対応がよく工夫されている。職員のモチベーションも上がっている。コロナ対策として、利用者の感染は出さない。職員に出た時のシミュレーションが必要。県から通達はきていると思うのでマニュアル作成も必要」との講評があった。

臨時評議員会は新型コロナウイルス感染症予防の為、令和二年十月十五日付提案書により、社会福祉法、定款の規則に従い書面により監事変更を審査いただき意見書で承認された。

GoTo キャンペーンの実施

児童養護施設 森の木



新型コロナウイルス感染症予防のため、今年度予定されていた園内行事はすべて中止となる中、子ども達に心に残る思い出づくりを考えると考え、森の木GoToキャンペーンを実施することにしました。

そこで考えついたのが、ロツジを丸ごと借り切り一泊旅行をしようというものだった。湯布院や九重にあるロツジを借り切り、大自然の中で走り回り、美味しい料理をみんなで食べ、十二月は無事に男子ユニットや女子ユニットも実施し楽しい思い出づくりをすることができた。幼児ユニットも本来であれば十二月に子ども達と一緒に話し合っただけで済んだが、子ども達も悔しがっていた。一月には代わりに外食を予定して過ごしているところだ。



ロツジで夕食会



今回は、このように森の木GoToキャンペーンを実施することができたのも沢山の方々の協力のおかげで、子ども達の笑顔をこのコロナ禍でも絶やさず見ることができた。今年度は、新型コロナウイルス感染症が早く終息し、子ども達に素敵な笑顔が戻る日が来ることを願うばかりだ。

きつまいも

おやつタイム

別府厚生館



十一月十六日、子ども達と六月に園庭の畑に植えたサツマイモの収穫を行った。前年は、芋がでず、皆ががっかりさせてしまったが、今年はいよいよ実が実った。皆をびっくりさせた。収穫を避けたため、少人数のグループに分けて、包丁で一口大に切る手伝いをしてもらった。蒸した石垣餅は、それぞれ



みんなで楽しく掘って お料理

例年、施設に隣接する大道北児童公園で開催している開園祭は、コロナウイルス感染拡大の影響により、規模を縮小して施設利用児者と職員のみで開催した。平日頃よりお世話になっている方々を招いて開催することが叶わなかったこともあり、これまでとは違う形で感謝の気持ちを地域へ還元しようとして、大道北児童公園の落ち葉拾いを行った。利用児者の賛同も得られ、職員と利用児者が一体となって掃除に励む姿が見られた。その後、園に戻った利用児者は、開園祭に向け練習してきたダンスを披露し、和やかな雰囲気の中で昼食を食べ親睦を深めた。

開園祭

コロナ禍の中でうへの園

第四十一回 九電工「愛の餅つき会」

清明あけぼの学園



十二月十二日、九電工「愛の餅つき会」を開催した。毎年、九電工や地域、保護者の方と一緒に杵と臼で餅をつき、ついたお餅を皆で丸めてその場で食べていたが、今回は例年のようにはいかなかった。しかし、行事を中止にするのではなく、「楽しむ力を育む」という思いから、規模は縮小するものの新しい様式での取り組みを試みた。パフオーマンスという形で一白のみ餅をつき、その場でお餅は食べられないが、数回ずつ餅をつくことができた。ついたお餅は正月の雑煮としていただいた。



けやきの木のベンチ 滝尾保育園

令和二年九月、事務室前の廊下に二つのベンチが置かれた。このベンチは平成二十八年七月に園舎建て替えを行うにあたり、伐採された大きなけやきの木で作られたものである。けやきの木は夏には青々と茂り涼しい木陰を作り、秋には美しい黄色の葉を舞わせ私達の目を楽しませてくれた。長い間、園庭で子ども達を見守ってくれていた木だっただけに、伐採すると決まった時には寂しい気持ちでいっぱいだった。すると、後藤哲臣顧問(前事務局長)から「何か作れるのではないか」と提案があり、自宅へと持ち

帰ってくださった。長い時間をかけ木を乾燥させ、木の中心の虫食い部分を埋め、脚を付けることでけやきの木は立派なベンチへと生まれ変わったのである。この間四年の年月が流れ、けやきの木は滝尾保育園へ戻ってきた。正直こんな素敵なものはないかと思っただけに、目にした時の驚きと感動はとてつもないものだった。



絵本を楽しむ

今、子ども達が絵本を読んだり、廊下を歩いている途中で少し休憩するのに座ったりしている。座っている子ども達の嬉しい様子を見てみると「いいね。」と嬉しそうに笑

へ、大木からベンチへと場所や姿は変わったが、これまでと変わらず子ども達のそばで成長を静かに温かく見守り続けてくれることだろう。今後子ども達の嬉しい場として、ずっと大切に使い続けていきたい。

めじろんダンス GO!!



感謝と健康の願いを込めて

当日は電動餅つき機でついたあんこ餅を昼食に食べた。また、今回初めて、九電工の方に会社説明をしていただいた。パワーポイントを使ってどのような仕事をしているのか紹介してもらい、実際に使っている高所作業車も持って来てくださった。試乗をさせてもらった児童は、屋上より高いところまで上って笑顔で手を振っていた。普段できない経験に「楽しかった!」と嬉しそうに話していた。毎年交流はしているものの、九電工とはどういふ会社なのかを知らない児童が多かったため、今回の交流を通して更に九電工

計報

前監事 此本卓彌氏 令和二年七月二十四日逝去されました。氏は、昭和五十七年六月から今年度まで三十八年間に亘り、法人の監事としてご尽力をいただきました。

元事務局長 西中文義氏 令和二年八月二十二日逝去されました。氏は、昭和六十三年四月から平成九年三月まで九年間に亘り、事務局長並びに清明学園と滝尾保育園の園長としてご尽力をいただきました。永きに亘り当法人の発展に寄与され、その功績に感謝申し上げます。心よりご冥福をお祈りいたします。

編集後記

無事に「福祉会報第八十三号」をお届けすることができました。ご協力有難うございました。



編集スタッフ